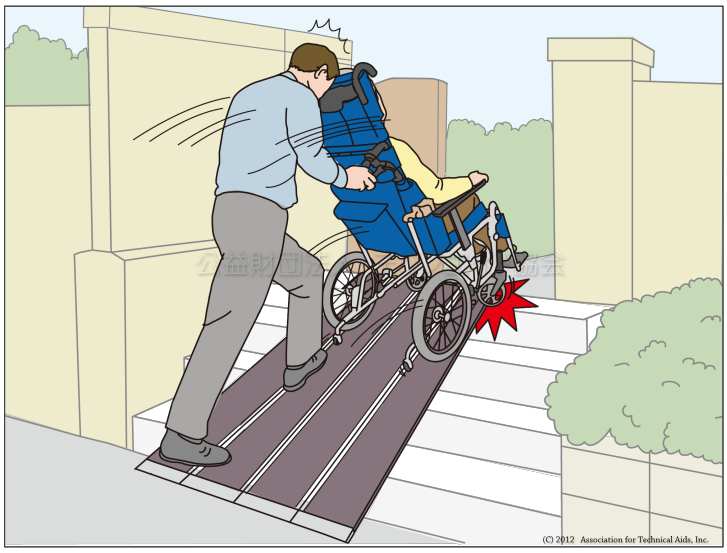
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：218

前方がよく見えず、転落しそうになる

場面の説明

スロープを使って階段を越えようとしたが、前方がよく見えないまま車いすを押し上げたため、車いすごとスロープから転落しそうになった



利用シーン	移動 階段の昇り降り 外出
主な利用場所	階段 玄関 段差・縁石
介護保険の種目	スロープ
分類コード (CCTA95)	183015 (携帯用スロープ)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

後方から介助する視線では、利用者の足元付近は死角となることが多く、スロープなど限られた幅の中で進行しなければならないときなどは神経を使います。スロープでは中心をまっすぐに進むことが基本ですが、余裕を持った角度の設定や、脱輪止めの側壁があるスロープなど、より安全性を高める選定も重要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：前方がよく見えなかった
人：斜め方向に上がっていたが気にしなかった
モノ：側壁がないタイプのスロープだった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.

福祉用具ヒヤリハット　研修教材（受講者用）

日付：	所属：	氏名：

Case：218

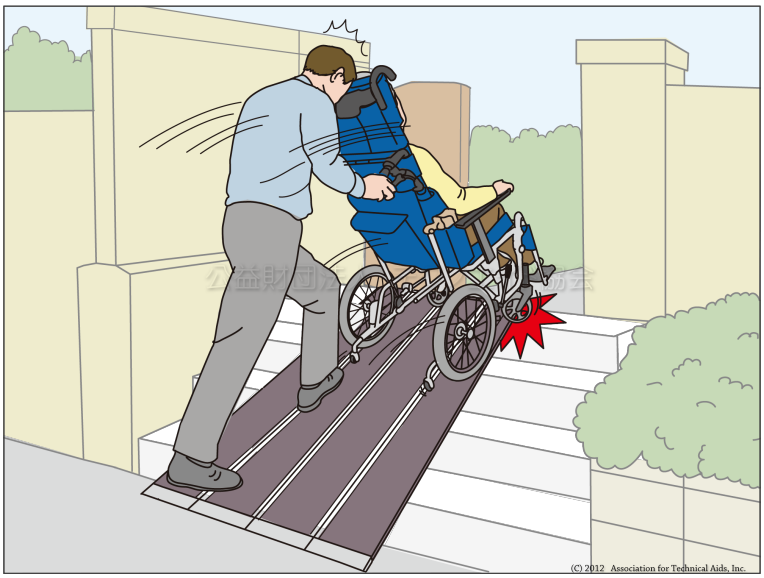
前方がよく見えず、転落しそうになる

事例詳細

回答前に見ないこと

場面の説明

スロープを使って階段を越えようとしたが、前方がよく見えないまま車いすを押し上げたため、車いすごとスロープから転落しそうになった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ

作成：公益財団法人テクノエイド協会

Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.